

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	稲荷山医療福祉センター 児童発達支援センターたんぼぼ		
○保護者評価実施期間	6年 4月 1日		7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	6年 4月 1日		7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・前身の「医療型」の支援内容をそのまま行えていることで、日々の体調管理以外に疾患からの体調変化等の把握が出来る、リハビリテーションとの連携による発達の伸びへの取り組みが出来る。	・医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士等で情報共有を日頃より取っている。また、学校の担当教員さんとも情報の共有を図り、支援内容の協議の場も適宜設けている	・他病院の主治医、地域支援（訪問看護、他事業所など）との情報共有がより連携できる工夫をしていく。
2	・医師との状況共有がスムーズに行えているため、医療的ケアや発達へ時に踏み込んだアプローチも出来ている。	・体調の状況を日々共有できるように連絡ツールを活用している。	・コロナ過で中止されていた担当医師も含めたカンファを再開する
3	・学齢児の利用児は、医療的、福祉的なケアを受けながら学校生活がスムーズに行えるように支援をしている。	・登校前、学校生活の中で体調が安定し教育が受けられるように、排痰や吸引等を適宜おこなっている。 ・学校の先生とは日常の中で都度体調変化の共有を図っている。また情報共有の場も設けている。	・共有の課題や連携の見直しなど必要時に検討の場を設けている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・スペースに限りがあり、活動スペースがワンフロアである。 ・幅広い年齢層を受け入れていること、医療的ケアの多い利用者があることで、感染症のリスクがある。 感染対策を十分に取ろうとするが故に、登園条件が厳しくなってしまう。 ・感染対策による活動の制限が出てしまう。	・センター全体的にスペースが足りない現状 ・重心児が多い。保育児と学童児を同日に支援しているため、感染症の予防対策時に関連先が多数になること、集団活動先が多方面になることで、予防対策時に全体休業になってしまう。 ・地域交流が感染対策の観点から出来なくなってしまった。	・活動ルームを簡素化しスペースを最大活用できるようにしている。トイレのスペースにもベットなど配置し活用する等の工夫をしている ・感染予防が必要になったら、速やかに保育児と学童児の生活圏を分ける工夫を取り入れる。 ・改築の検討も進めている ・地域の活動スペース等へ出向き他児と触れ合う機会を取っている。地域園などとも交流について相談させていただく
2	通園バスを運行しているが、使用している車両では、身体が大きくなった利用者の対応ができない。	・自体不自由児が乗車するのでカーシートが必須だが、バスの形態（2点ベルト座席）から、市販のチャイルドシートしか使用できなかった。 ・乗車利用が保育児から学童児までにおよび、使用しているカーシートからサイズアウトしてしまう。	・本人用の座位保持の持ち込みを出来るようにした。 ・新規バスの購入を検討し始めた。
3	・職員数が特に長期休み等で受け入れ人数増えることで不足がちになる ・家庭支援プログラム等が行えていない	・職員募集をしているが応募がない。保育士養成校へ業務アピールに伺いたいが、出向く職員体制が取れない ・利用者が幅広く個々の課題の違いも大きいことから全体の家庭支援プログラム等が行えていない	・職員募集を多方面にしている ・養成校へ通園の事を知っていただく機会や方法を検討する ・保護者から聞いてみたい情報や困っていることなど上げてもらい支援プログラムを検討していく